

◆意見書が必要な病気

病名	主な症状	潜伏期間	登園のめやす
はしか (麻疹)	発熱、せき、鼻水、目やに。頬の内側に白い斑点コプリック斑ができる。発熱後4日目より発疹。	8~12日	解熱した後3日を経過していること
風疹	発熱、発疹、耳の後ろ、首、わきの下などが腫れる。せき。結膜充血。	16~18日	発疹が消失していること
みずぼうそう (水痘)	水疱のある発疹がからだ中に次々と出る。かさぶたとなり、先に出たものから治っていく。	14~16日	すべての発疹が痂皮化していること
おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)	37~38℃の発熱。まず片側、ついで両側のあごの後ろが大きく腫れて痛む。食欲不振。えん下困難。	16~18日	耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫脹が始まってから5日を経過し、かつ全身状態が良好になっていること
百日咳	はじめは軽い咳、のどの発赤がみられる。発病後1週間くらいからコンコンと咳込んだ後にヒューヒューという音を立てて息を吸う。	7~10日	特有の咳が消失していること又は適正な抗菌薬による5日間の治療が終了していること
咽頭結膜熱 (プール熱)	発熱、のどの痛み、結膜炎、首のリンパ節の腫れ。	2~14日	発熱、充血等の主要症状が消失した後2日経過していること
溶連菌感染症	発熱、咽頭痛、粟粒大の赤い発疹。痒み、咳、舌がいちごのようにブツブツになる。咽頭発赤。	2~5日	抗菌薬内服後24~48時間が経過していること
腸管出血性大腸菌感染症 (O-157、26、111など)	激しい腹痛ではじまり、数時間後水様性の下痢を起こす。血便も起こる。嘔吐、嘔気がある。発熱は軽度。	10時間~6日 O-157は主に3~4日	医師により感染の恐れがないと認められていること。 5歳未満児は2回以上連続で便から菌が検出されないこと。
感染性胃腸炎 ノロウイルス・ロタウイルス・アデノウイルスなど	嘔吐と下痢が主症状であり、脱水症状に注意を要する。ロタウイルスでは下痢便が牛乳のように白くなる。	12~48時間 1~3日 3~10日など	医師により感染の恐れがないと認められ、下痢・嘔吐症状が治まり、普段の食事が摂れること
結核	初期は自覚症状なし。X線で発見されることが多い。疲労感、寝汗、微熱、体重減少、肩凝り、せき、たん。	3ヶ月~数10年 ほとんどが2年以上で6か月以内に発症が多い	医師により感染の恐れがないと認められていること。
流行性角結膜炎	涙がよく出る。目やに、異物が入っている感じ。結膜が充血する。アデノウイルスによる。	2~14日	結膜炎の症状が消失していること。
急性出血性結膜炎	きつい充血、出血してくる。エンテロウイルスによる。	平均24時間 又は2~3日	医師により感染の恐れがないと認められていること。
髄膜炎菌性髄膜炎	髄膜炎の症状(頭痛、発熱、首が硬くなる、痙攣、意識障害、大泉門膨隆など)。	4日以内	医師により感染の恐れがないと認められていること。
RSウイルス 2歳未満児	発熱、鼻水、せき、喘鳴などにより、呼吸困難を引き起こす。6か月未満は重症化しやすいため注意。(2歳以上児は登園届けでよい)。	4~6日	呼吸状態が消失し、全身状態が良いこと
伝染性膿痂疹 (とびひ) 顔・頭の場合	水疱やびらん、痂皮(かさぶた)が、鼻周囲、体幹、四肢等の全身にみられる。(体幹などで、完全に覆える状態であれば、登園届けでよい)。	2~10日 溶連菌は7~10日	病変部を外用薬で処置し、浸出液がしみ出ないようにガーゼ等で覆えば登園可能